

今回の個別フォローでは、前日に開催されたコーチング練習会アドバンスクラスに参加した会社の後輩についての話を聞いていただきました。

前日のアドバンスクラスでは、後輩が自分に向き合うことができていないため、感想や自分の意見を言う場面で表面的な言動しかできておらず、それを陽子さんや他の参加メンバーが指摘してくれました。そういった指摘は後輩にとっては今までに受けたことがなかっただろうし、きちんと受け入れられるか不安に感じていましたが、翌日会社で話をしたとき「私はコーチング向いていないかもしれません」とネガティブな反応が返ってきて、やはり自分と向き合ったことがない人にとってはすぐに受け入れられることではないのだなと感じていました。

個別フォローで陽子さんに話を聞いてもらって、「痛みを伴う負荷をかけることでしか得られない成長がある。自然にできる成長レベルで満足なのか」という観点で説明してもらって納得しました。

後輩本人はこのままでいいと思っていて危機感を感じていないけれど、私から見たらもっと成長できるはずだし、年齢を重ねれば重ねるほど自分に向き合うのは難しくなるものだから、この段階で一度負荷をかけて自分に向き合ってほしいという思いを強くしました。

そして、講座の主催者である陽子さんの立場では、耳の痛い指摘などしなければ次回以降も同じスタンスで来てくれであろう受講生に対して、あえて今言う必要があると感じたか

ら伝えてくださったのであり、そういう講座は他にはないのだと価値をしっかりと伝えたいと思いました。

「私には必要ない」と断られてしまうと「そこまでのことを求めているのか」と判断して引き下がってしまうのですが、自分が求めているものがわかっていないし、続けることで得られる価値も当然理解できていないのだからしっかり会話して伝えてからでない結論を出すには早すぎるのだと理解しました。

振り返ってみるとしっかり伝えてもいないのに勝手にあきらめてしまうというのは私の日常のあらゆる面で共通して起きていることだなと思います。陽子さんに説明していただいた「やきもちを焼くことでしか好意の示し方を知らない人もいる」というたとえ話のように、自分と同じスタイルのコミュニケーションを他者もとってくるとは限らないわけで「知らないかもしれない」という前提を自分の中にストックとして持っておくともっとフラットに受け止められるしあきらめずにすむだろうと思います。

一つの出来事を深堀していただいたことで自分のコミュニケーションや課題について思考を深めることができました。今回もありがとうございました。

(A.K 30代女性 富山県)